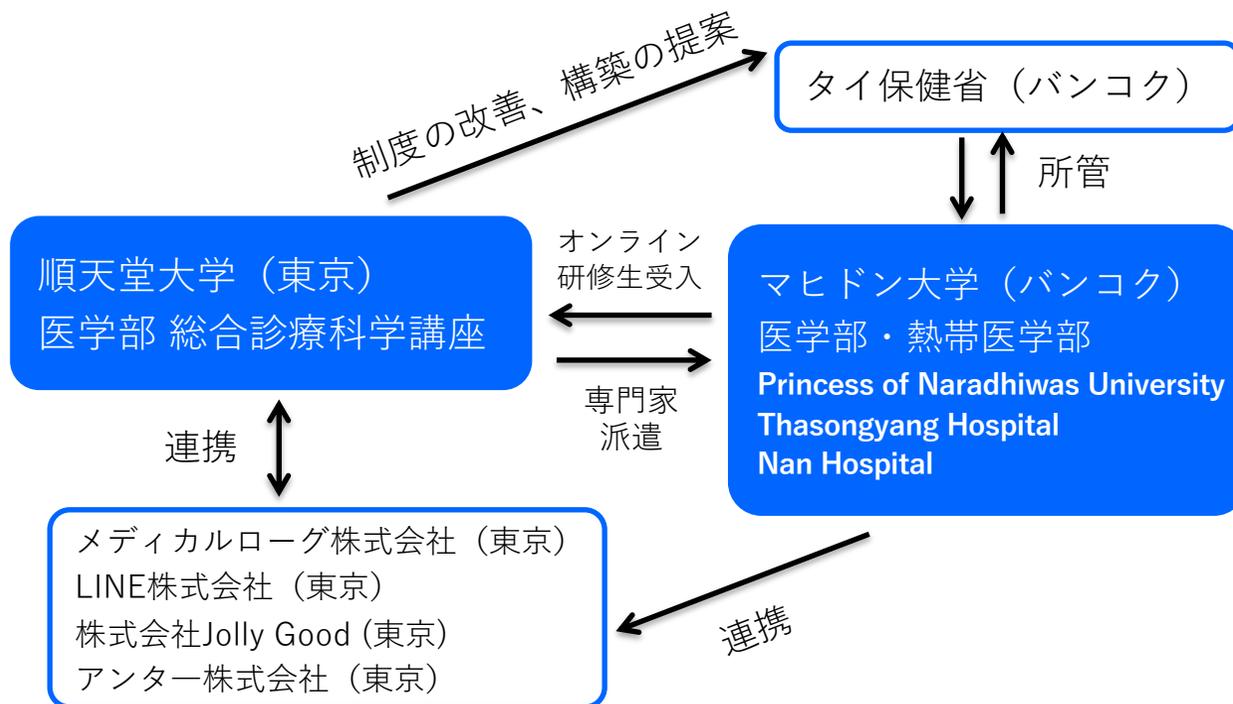


タイ、東南アジアにおけるITを利用した感染症、地域医療人材養成事業

- タイの医師は卒後3年間地域医療に携わる義務があるが、感染症に関する十分な研修や教育を受ける体制が整っておらず、地域において新型コロナウイルス感染症を含めた各種感染症に対応する人材の育成が求められている。
- ITを活用した教育はエビデンスがあり、今後の医学教育の主流となることが予想されている。タイ国境沿いの地域医療に関わる医学生や研修医、医師を対象に、ITを用いた感染症教育を行うことで知識と経験を向上させ、地域住民の健康に寄与する。また、タイの中核大学と連携し、卒前・卒後の一貫した人材育成を行うことで、地域医療における健康危機への対応を含めた感染症診療の質の向上を目指す。
- 順天堂大学は、Eラーニングや携帯電話のアプリケーション、VRを活用した感染症教育プログラムを作成し運用している。この教育プログラムをタイの中核大学や病院と連携して運用するとともに、教育コンテンツの作成を行う。さらに、専門家派遣やオンラインセミナーを通して、感染症教育や指導者の技術的支援を行う。
- 1年目は関係の深いマヒドン大学や地域の病院との連携の下、教育プログラムを完成させ運用し、2年目はタイ全土での運用を目指す。3年目に連携が強いベトナム等のASEAN諸国で運用することで、世界のリソースの少ない地域で感染症診療に関する教育を提供する。



<2022年年度研修スケジュール予定>

A 通年

作成したEラーニング、LINE社のアプリケーション、VRコンテンツを使用したオンライン研修

B 7月 専門家派遣 (3名)

現地視察、現地関係者との協議とコンテンツ作成、指導者研修の実施

C 12月 オンラインセミナー (50名)

感染症、地域医療に関するオンラインセミナーの開催

D 2月 専門家派遣 (3名)

現地視察、評価・改善に関する協議、次年度の事業に関するミーティング